令和6年度 第3回岡山市子ども・子育て会議 全体会議事録（議事録／要約）

日時：令和6年11月28日（木）午後2時00分～午後3時52分

場所：岡山市役所 本庁 7階大会議室

【開会】

○岡山っ子育成局長挨拶

○会長挨拶

○会議成立確認・・・委員20名中16名出席により会議成立

○議事（議事進行は会長）

議題（1）岡山市こども計画の素案について

【事務局から資料に沿って説明】

○会長 ページを区切って意見をうかがっていく。岡山市こども計画の素案の中の第1部、全体計画のところの、第1章から第2章、31ページまでの間について中身、読みやすさ、見やすさなど含めてご意見をいただきたい。

○委員 5ページの真ん中あたりに「小さな失敗も経験しながら」とあるが、「小さな」と入れる必要があるのか。大きな失敗は許されないわけではなく、「小さい」をあえて入れた意味がわからない。

○事務局 教育の世界でよく言われている「さざ波体験」という、さざ波のように小さい失敗を経験しながら積み重ねながら成長していくというイメージで書いている。小さな失敗にかかわらず、非常に困難なことがあっても、周囲の方の力も借りながら子供たち、若者たちは成長していくので、ご意見を参考に検討させていただきたい。

○委員 素案の2ページ、3段落目の2行目に「保育環境の充実」とある。2枚物の素案についてのほうは、ぽつ2つめに「保育の質の向上」とある。この違いをつけたのは何か意味があるのか。「保育環境の充実」の中に保育の質の向上を含めているのかがわからない。

○事務局 「保育環境の充実」の中には保育の質の向上も含めて、受皿確保も含めた充実である。

- 委員 含まれているということが伝わりにくい。広く多くの方が目を通すものである
ので、伝わるような形の表記が望ましい。
- 会長 文章を読んだだけでは、含まれているのか伝わりにくいので、検討してくださ
い。
- 委員 岡山市議会で議員の発議で子どもの権利の条例案が策定中だと思うが、柱の1の
こども・若者の権利の尊重、の部分とは相反するものはないのか。
- 事務局 大きな方向性は同じであると認識しており、議会のほうとも相談しながら足並
みをそろえてやっていきたい。
- 会長 33ページから37ページの柱1へ移る。岡山市としては、こども・若者の権利の尊
重というのを一番に持ってきた。以前の会議で委員から意見が出た子供を真ん中
にということ尊重し、一番重要であるため、一番に持ってきている。先ほどの
議会で策定中の条例との関係もある。何か意見はあるか。
- 委員 35ページのこどもの権利擁護の推進、こども総合相談所の中の「第三者に意見を
聴かれる権利」について、権利は行使するものであって主体的に何かするという
ことが権利だが、「聴かれる」という受け身なことが権利というのは、腑に落ち
ない表現である。子どもの権利に関する条文などには「聴かれる権利」という言
葉が何回も出てくるため、日本の中でこのようは表現が定着していることは納得
したが、「意見を聴かれる権利」という、してもらえるか、してもらえないか分
からないことが権利というのは、子供が主体の立場にはなっていないのではない
かと感じる。「意見を聴いてもらえる」などの、子供が主体になった表現に変え
ることはできないのか。
- 事務局 「子どもの意見を聴かれる権利」という表現について、改正児童福祉法の中で
「意見を聴かれる権利をしっかりと保障しなさい」という表現があり、それを引
用しているが、指摘も当然と思う。表現のほうは、県と共同作成をしている社会
的養育推進計画とも関連するので、県とも併せて協議したい。
- 委員 「学校」という言葉について、学校というと通常、幼稚園を含んで、こども園は
含まれないと思われる。33ページの事業・取組名のところは「学校」と書かれて
いる。35ページの中段の施策1-2の取組名の上から2つ目、「学校における」
というところは「岡山市立学校園」となっていて、ここの学校園にはこども園も
入ると理解をする。「学校」という言葉が、どこまでの範囲かというのが分かり

にくく、そのあたりを明確にしたほうがよいのではないか。

○事務局 教育委員会と協議をして確認させていただく。

○委員 こどもの意見の尊重というところで、34ページに右下に「発達に応じて十分に考慮します」とある。乳幼児に関しての意見の尊重というところに関して、この取組が若干見えにくい。先ほど意見がでた、学校におけるこどもの意見聴取の取組、「『教育に関する総合調査』によって」のところで、「岡山市立学校園」で、こども園も含めてと思われるが、では保育園の子供たちの意見はどうなるのだろうと気になる。保育園の乳幼児の子たちも意見を表明する権利はもちろんあり、それを聞いてもらえる環境が保障されているのかが見えにくい。そこはぜひ加えていただきたい。

○事務局 保育園について整理をさせていただきたいんですけど、35ページの右下のところに今回初めて試行的に、自分たちが大事だと思うことというものを選んでシールを貼ってもらう取組を行った。メインは小学生の意見を聞くことだったが、小学校へ上がる前の未就学のお子さんも保護者の方と一緒にシールを貼っていただいた。赤ちゃんとなると難しいかもしれないが、4・5歳のお子さんだと保護者の方と話をしながら自分なりに考えて貼っている姿も見ることができた。特に幼いお子様たちの意見をどのように聞いていくのか考えていきたい。

○会長 35ページの文章について、「教育に関する総合調査」は「岡山市立学校園の児童並びに保護者、教職員」となっており、生徒は入らないのかと疑問に思った。中学校も調査していると思われるので、「児童・生徒」が正しいのではないか。

○事務局 教育委員会へ確認する。

○委員 35ページの中ほどの学校におけるこどもの意見聴取の取組の概要について、「『教育に関する総合調査』によって、岡山市立学校園の児童並びに保護者と教職員からの教育やこどもに関する意見を聴取する」と書かれている。私は私立の保育園・こども園を代表して出席しているが、我々はもう排除するというふうを受け止めておけばよろしいか。私立は入らないのか。

○保育・幼児教育部長 もともと教育委員会が公立の幼稚園までを対象にやっていたものだとして認識している。教育委員会に確認をし、こども園が入るのかどうかのあたりも確認し、修正できるのであればしてまいりたい。趣旨として決して排除するとか、そういう趣旨ではない。

- 委員 今後やりたい取組が書かれているが、表現のほうを工夫していただきたい。
- 会長 ぜひ検討していただきたい。教育に関する総合調査は市立の学校園に対して行っている現状かもしれないが、今後については、私立をどうするかというところも考えていただきたい。では2番、柱の2、こどもが安全で健やかに育つことができる環境づくりの部分である36ページから40ページまでで意見等あるか。
- 委員 こどもが安全で健やかに育つことができる環境づくりの柱2というところが一番大切である。子供たちのアンケートからも自分たちの遊び場をちゃんと確保してもらうことが一番大事という子供たちの意見があるが、これまでにあったことばかりで、新たにやることは出てこない。既存のものを充実させるのかもしれないが、拠点の数がそもそも少な過ぎる。児童館も数が少ない。各中学校区とか各小学校区に必ずこれはあつていい施設でありながら、とても少なく、増やすことは見えてこない。拠点を増やすと言葉では書いてあるが、数が圧倒的に足りない。増える方策というのは立てられるんでしょうか。
- 事務局 子供たちが地域で元気に遊べる場所というのは、子育てにおいて重要なキーワードである。その上で拠点については、基本は中学校区内に1か所つくるという支援、取組をしている。令和6年、令和7年、令和8年で数か所ずつ、まだ拠点のないところを募集をしており、増やしていこうという方針はある。そういったことを伝えることができる表現を検討したい。
- 委員 38ページの事業・取組の上から4つ目、心豊かな子どもの育成事業の1行目の「授業公開を伴う『岡山市道徳教育研究協議会』を実施する。」という文章の意味がよく分からない。
- 事務局 確かに何を具体的にするのが分かりにくい。教育委員会へ確認し、具体的に各のかについて検討する。
- 会長 37ページの一番上のおやこクラブのところについて、「親と子の仲間づくり」というのは、親同士、子供同士の仲間づくりなのか。
- 事務局 親同士の仲間づくりであるとか子供を通しての仲間づくり、それから子供同士の仲間づくり、そういった意味を込めて書かせていただいている。この文章だと親と子が仲よくなるようにもとれるので、表現について検討させていただく。
- 委員 おやこクラブの存続ができないところのほうがとても多い。これがちゃんと今後の柱に堂々と入っているというところにちょっとした違和感がある。

- 事務局 およこクラブは、とても大事だととらえている。会員数も減り、小さい地区では、近隣の地域との合併のクラブもあり、クラブ数自体も減ってきている。ただ、愛育委員さんとか地域とのつながりを大事にしながら活動をしていくことは、小学校、中学校に入っていく中でも、大事である。ご意見はうけとめ、持ち帰り検討するが、柱には入れておきたいと思っている。
- 委員 柱の2のこどもが安全で健やかに育つことができる環境づくりについては、地域でも子供が安全に健やかに育つことができる環境づくりが必要ではないかと思う。町内会等の力も必要になってくると思うが、地域の団体にやってほしい取組を示すようなものはないのか。
- 事務局 子供を安全に健やかに育てるには、地域での手助け・協力が非常に大事だと考えている。様々な面があるが、子供会のほうで子供たちの健全育成ということで様々な取組をしていただいている。引き続き子供会のほうには一翼を担っていただき、子供たちを健やかに育てる環境づくりに努めていきたいと考えている。
- 事務局 地域社会の子育て力については、40ページのところに施策の2-3として事業を並べている。町内会の皆様には、いろんなところに様々な活動で入っていただいている。例えば地域子育て支援課では、子育て広場であったり、子供会・町内会の方にかかわっていただいているものもたくさんある。町内会・愛育委員・民生委員・地域の皆さんと一緒に地域の子供たちを地域全体で育てていく取組は居場所づくりの中で非常に重要と考え、2-3のところを書いているものである。
- 委員 弊社では児童クラブを応援しているが、待機児童も多い。放課後子ども教室の活用など、待機児童解消のために力を入れるつもりはないのか。全児童対策などに力を入れることを岡山市のほうでは考えられているなどないか。
- 事務局 ふれあい公社には放課後児童クラブの運営でご協力いただいている。子供たちの放課後の過ごし方というのは、1つは放課後児童クラブ、もう一つは放課後子ども教室という受皿という側面も考えていくべきである。この計画において、放課後子ども教室については現状では地域の担い手というのが不足している。飛躍的に伸ばすのは現状難しい面もある。一方でこの新たな計画で5年間で1か所ずつでも増やしていこうと、毎年度1か所ずつ増加していこうということで取り組んでいきたい。総合的に放課後児童クラブであったり子ども教室であったり、もしくは児童館であったり、様々な受皿を利用して子供たちの放課後の居場所づく

りをしていきたい。

○事務局 36ページの柱2の中や、109ページあたりなど、放課後の子供の居場所について、児童クラブであったり放課後子ども教室であったり、総合的に子供の居場所をつくっていかうというものである。繰り返しになるが、両者をいろいろ合わせながら様々な子供の居場所づくりを確保していきたい。

○会長 それでは、柱の3の若者の成長と未来のための支援ということで書かれている部分である41ページから43ページについて、意見はあるか。

(意見なし)

○会長 では柱の4の困難を抱える子どもや若者、その家庭への支援である44ページから54ページまで、意見はあるか。

○会長 48ページの真ん中の児童館の運営のところについて、「児童に健全な遊びを与えて」とある。遊びを与えるというのは表現が違うのではないか。代案としては「健全な遊びを通して児童の健康を増進し」はどうか。遊びを与えるというのがちょっと引っかかる。

○事務局 この文章については、児童館の根拠法は児童福祉法で定められており、少し法的な文言を引っ張り過ぎたかと感じている。一般の市民の方が見て伝わる言葉が必要である。少し検討したい。

○委員 51ページの障害児保育のところ、概要の一番上のところ、概要に書かれていること全て強くご支援ください。

○保育・幼児教育部長 来年度以降、予算が伴うこともあり、こういう表現にしている。保育の質の向上、その中に障害児・医療的ケア児等への支援等々もろもろ入っており、今後とも頑張ってもらいたい。

○委員 障害児保育事業のところを強く思っている。51ページの概要が示されているが、この具体は、いつ、どのようにして見ることができるのか。どのように進めていくのかを知りたい。

○保育・幼児教育部長 予算の中においては主要事業を幾ら拡充とか新規などなどでお示ししており、この場でお示しすることはできないが、「市民のひろば」等々へも予算全般を載せており、そういう場を借りて周知に努めたい。

○会長 53ページから54ページについて、いじめとか不登校が出てきている。学校関係の委員の意見をききたい。

○委員 いじめ・不登校、それからその前のページの障害児・医療的ケア児童というあたりで、事業・施策をいろいろ考えて、かなり網羅はできていると感じる。ただ、実際人がいないという現状がある。スクールカウンセラーも、小規模の学校では月に1日しか来てもらえないなど、非常に厳しい人数で児童の様々な特性を持った児童に対応していくため、現状としては厳しい面もある。これを拡充するには、それなりの予算も必要であるし、理解も必要になってくる。そのあたりの解決をしてほしい。53ページの表の上から3つ目で、学校問題解決サポート事業なども弁護士さん等の専門家を派遣するということは必要である。問題が大きくなってくると、保護者と教師だけではなかなか解決が見いだせない現状課題が大きいものもある。要望ばかりになるが、そのあたりもしっかりしてもらいたい。

○ 会長 それでは柱の5番の妊娠期からの切れ目のない健康づくりへの支援、55ページから58ページについて意見はあるか

(意見なし)

○ 会長 柱の6の子育ての負担感や不安感をやわらげる支援、子育て、59ページから63ページについて意見はあるか。

○委員 公募で来ているが、ここに来ていなかったら知らなかったことがすごく多い。市の方がしていることに気づけたというのが、大きなことである。確かにまだまだということもあるが、どんどんよくなっている。私が昔、子育てしていたときよりもよくなっていることを実感している。子育て中というのは本当に情報があっても知る機会があるようでないということが困ることである。知らないからこそ自分の思うように伝えてしまうのでクレームになってしまう面もあると思う。知ってもらう機会をもう少し増やすのがよいのではないか。していることがきちんと伝わらないと、お互いに歩み寄るということもできないのかと思う。ここに来たから学童にも参加して、今度は高学年なのでファミリーサポートに登録をしてみようと思っている。ファミリーサポートも地域子育て支援課さんと書かれており、いろんなつなりに混乱してしまうという状況である。市民といっても情報を知らないというのがとても残念だなというのを思いました。ぜひこれを見てもらう方が子供とか子育て世帯という方であれば、分かりやすいものにもう少しかみ砕くものもあればよい。子供の意見を聞いてほしいという言葉がすごい子供のほうから出ているが、子供の声を聞くというよりも大人のほうが耳を傾ける

という機会がもうできないぐらい余裕のない状態だからこそ、いろんな所に当たってしまっているのかなと思うので、市とも地域とも保護者ともが3者が歩み寄って話ができる機会を設けていただきたい。パブリックコメントとかも知っている方も少ないんじゃないか。子育てだけではなく、地域の方にも知ってもらえるようにしていただきたい。

○会長 もっといろんな形でアピールや知らせる活動に力を入れてほしい。

○事務局 昔よりは進んでいるというお言葉をいただき、日々の職員の苦労も少し報われた面もあるかと思う。制度が充実してきたその一方でタイムリーなお母さんたち、お父さんたちが制度を知らなくて使えないということも非常にあるのではないか。本日の資料では60ページ、60ページの下から4番目の子育て支援アプリの運営というのがある。ご両親がお子さんの出生届を出したときに、市でこういうアプリをしていると紹介をしている。お子さんの年齢によって、プッシュ型で情報を発信する。従来はホームページで見てもらおうというのが主流だったが、忙しく日々子育てに追われている親御さんたちはホームページを見る余裕がないかもしれず、制度に気づかない面もあるので、最近はこのアプリにより、プッシュ型で情報を周知することに取り組んでいる。こういうアプリを使ってタイムリーな情報をいかに届けていくのかというのを引き続き考えていきたい。

○委員 二つお話しをする。一つ目は政令指定都市の会議等々で他市の話を聞くと、岡山市は本当に手厚いと感じる。手厚いことを感じてもらうには、たとえばアプリに困っていることを入力すると対応したページが出てくるなどの方法があるのではないか。二つ目は、59ページのこども誰でも通園制度について。国がこの2年ぐらいかけて試験運用をしているが、政令指定都市の会議では制度がまずいという意見が多く出る。何人来るか分からない子供に対して先生を配置するが、人件費が出ないことが大きな理由である。子どもの不登校・いじめなどのさまざまな悩みや、保護者の子育てなどのさまざまな悩みに対しての駆け込み寺になるような誰でも通園制度を、今後未来に向かって、保育園こども園と連携して岡山市独自モデルとして、考えていけたらよいと思う。

○会長 それでは柱の7の共働き・共育での推進のところ、64ページから67ページについて、意見はあるか。

○委員 放課後児童クラブの充実というところで66ページのところに書かれてある。人員

の確保について、ふれあい公社では令和2年度から岡山市立放課後児童クラブの運営を岡山市から委託を受けて運営を行っている。待機児童を解消するために定員を超えての児童の受入れ・岡山市の施設整備・タイムシェアの活用に伴い、一人でも多くの職員を採用できるように奔走している。現状として岡山市が目標としている令和9年度までに待機児童を解消するための人員確保には非常に苦慮している状況にある。その状況で、放課後児童クラブの事業に放課後児童クラブのサービスの向上として、「地域の実情に応じ、毎週土曜日の開所や長期休業中の開所時間の延長を図る。」とある。学校のほうでも人員がなかなか不足しており、全体的に子供を見る人員というのは、どこも足りてないことが分かるが、何か具体的な人員確保の策があるのかをききたい。

○事務局 子供たちを安全・安心に受け入れるためには、施設の場所などハード面も大事だが、人員の確保も必須である。その一方で、社会的に労働力人口の減少に伴い、どの業界も人の確保は苦慮している面があるのではないか。今年度、岡山市としては、まず児童クラブを一緒に取りあえずやりながら、まず児童クラブの仕事は何ぞやと、まず支援員の仕事は何ぞやということで、知ってもらうということをもまず手がかりに今一緒に取り組んでいる状況である。その上で、説明会や職場見学会など知ってもらうために力を入れている。若い方や、子育てが終わった方や、自分の経験を生かしたい方、社会参加という面も含めて社会に協力したい方、などいるかもしれない。この取組はすぐに効果が出るかどうか分からないが、様々なクラブと一緒に力を入れながら継続的に取り組んでいきたい。その上で、毎週土曜日の開所や長期休暇について保護者の様々なニーズがあるのは承知している。まず今は待機児童問題に取り組み、受皿の確保をしつつ、量と質の両車輪で今後も取り組んでいきたい。

○委員 64ページに保育の受皿の確保がある。保育の受皿の確保とともに、人の確保が必要になってくる。今多くの事業所では、紹介会社を通じて保育士等の確保をしているが、多額の費用がかかってくる。その費用は本来なら子供たちに使うお金だが、それが紹介会社に使われてしまうというのが現状である。64ページの下から2番目の保育士確保支援事業、保育士・保育所支援センター事業、ここの拡充や強化が必要になってくるのではないか。

○保育・幼児教育部長 保育環境もろもろ頑張ってもらいたい。いろんな声を聞いてお

り、様々な面で頑張ってもらいたい。

○委員 64ページの先ほど保育の受皿の確保とあるが、未入园児がまだ存在してはいるが、待機児童がゼロになっている。私ごとでいえば、小さい頃は待機児童だった。子供ながらに覚えていて、今ゼロになっているのは、岡山市がすごく頑張ってくれたと感じている。質問だが「提供区域等の需給バランスを見ながら、定員設定を行う。」というところで、これは定員設定を公私ともに需給バランスを見ながら増減して調整していくという認識で合っているか。

○事務局 大きな枠組みとしては、量の見込みを上回ったものを受皿を確保しているというスタンスがある。ただ、実際のところは95ページ以降、量の見込みの確保方策、支援事業計画を載せているが、提供区域によってはばらつきがある状況である。そういった中で、大きな枠組みとしては、施設を整備するという観点からは公立のこども園を整備する、もしくは民営化によるこども園を整備するという整備以外は見込んではいないが、例えば未入园が生じやすいエリアであったりすれば、公立のこども園での特に1歳、2歳を中心に定員を増やしたり、また場合によっては私立園のご協力もいただきながら進めている。今後もそういう方針である。

○委員 その下の最適化に向けた施設整備について、一番最後の行、「その他の市立園は民間移管もしくは統廃合を進める。」というところ。統廃合にポイントを当てると、素案の29ページで、認定こども園・保育園、幼稚園などの保育サービス、「子育てしやすいまちにするために支援が必要だと思うこと」で41.6%とある。8ページの自由意見では、保育・幼稚園などの保育サービスについて、保育園や預けられる先を求めている声が多くある。統廃合をするというのは、地域からある意味、施設がなくなるということになると思うが、それは5ページにある「こども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり」と矛盾してくるんじゃないのか。いろんな家庭環境があったりニーズがある中で、公立自らがその選択肢を減らしていると感じる。

○事務局 承知をしている部分ではあるが、岡山市としては36の中学校区に1園、公立のこども園を整備をする方針である。セーフティーネットの役割を持つ公立園として整備をしている。これは通えなくなるということではなく、しっかり中学校区に1園造らせていただいているということである。将来にわたっても、これから

も人口減少下にあっても、安定的に良質な就学前教育・保育を提供し続けるための施策である。

○会長 それでは68ページ・69ページが指標、その後が2部の個別計画、最後に資料である。ほかに伝えたいことがあるか。

○委員 107ページの放課後児童クラブの令和11年度に達成されるべき目標整備量と具体的な確保方策で、何らかの計算式が全部表の中に入っていると思うが、例えば、令和7年度の5年生が1,019人で、次の年6年生は593人、これは58%になっている。しかし、令和8から令和9は62%、令和9から令和10は70%、令和10から令和11は78%という、この考え方としたら、高学年になってもこの先預けるのが長くなるという見立てをしているのかと思うが、本当にそうなのか。その計算の根拠はどのような形があったのか。

○事務局 108ページをご覧いただきたい。まず、量の見込みの考え方として、推定児童数、今後の児童の数から実はアンケート等を行い、利用希望割合というあたりを考慮し、今後利用の希望、利用申請割合を出している。例えば令和6年5月は、6年生が現在6.1%が令和12年では一応21.2%というふうに予測を出している。一方で、5年生も現状11.4%が30%ということで、見込みとしては、かなり増えている。一方で、今低学年についても、例えば1年生は現状利用率は52.7%で高い水準にあるので、令和12年は62%で増えているが、増え率という幅では、現状が低学年はもう既に高いので、増減率としては少ない。一方で、なぜ今後高学年が増えていくのかという面だが、令和2年から令和4年まで地域にあった児童クラブを市立化して、ふれあい公社のほうで一体で委託することで、サービスの向上など、さまざまなことで児童クラブを利用していききたいという年代がそろそろ4年生、5年生に到達している部分もある。例えば保育園は、岡山市の施策として保育園の待機児童対策に力を入れ、子供を保育園に預けて両親が働くという構造が今大体主流になってきている。そのあたりの子どもが今後年を重ねていくにつれて、4年生、5年生になっていく。そうなれば、今まで4年生ぐらいで児童クラブをやめられていた方が4年生、5年生になってもクラブに預けたいというニーズがあるだろうという部分を若干アンケートの回答等を考慮し、予測値をしている。この予測値についてもいろんな意見がある。ただ、我々は一定の基準を出し、何とかこの見込みを達成できるよう、引き続き受皿確保に取り組んでいくた

い。

○委員 おやこクラブというのが、自分たちで自分たちの子供をよりよく育てたいという気持ちを持たれた方たちの集まりなので、本当にいろんな経験のあるお母さんたちが自分たちで知恵を出し合って子育てをされている。例えば月に1回とか月2回でも自分たちで計画を立てて、自分たちで自分たちの子供を育てるという形である。お金が全然かかってない。コミュニティハウスを借りたりしている。私自身も子育て広場をしている。人手不足とかお金がないとかいうことなしに、自分たちで自分たちのよい環境をつくりたいという気持ちで子育てをしようという人たちは、とてもたくさんいる。おやこクラブが、だんだん低年齢化しており、子供たちを児童館とか、いろんなどころで預かってもらえるため、自分たちで苦労するよりは預けるのがよいという形になり、活動が細くなっている。でも、私の地域でおやこクラブを一緒にした方々は、そのまま幼稚園の役員をやり、小学校の役員をやり、地域の役を受けて、その方たちは今地域の子供たちの遊び場のための活動をボランティアで大々的にしてくださっている。人手不足やお金がかかるから、とても難しいというのではなく、意欲をもっと大事にしたことを考えてほしい。私たちに何が足りないかといえば、場所が足りない。場所さえあればできるが、その場所がない。私たちの学区の幼稚園は園児数が減り、なくなってしまった。なくなった幼稚園はどうされるんですかと前質問したときに、それは売り払いますみたいなお話だったのが、今回この冊子を見ると廃園になった幼稚園は子供たちの施設のために使っていくというふうに明記されていたので、とてもうれしく思った。人手が不要な公民館とか児童館のようなものをもっと充実してもらおうと、地域の中の顔見知りで不登校の子たちの居場所にもなるし、困ったときの居場所になる。そういう地域の力をもっと大事に使ってほしいが、その力を有効に使うためには本当に場所が必要である。その場所は必ずしも専門職がたくさん必要ではなく、公民館の職員さん程度の1人責任者がいて、安全な場所さえもらえたら、本当にみんなはすごい力を持っているということをお伝えしたい。

○委員 素案で今後のスケジュールを拝見し、パブリックコメントが始まっていることを知らなかった。ふだん保護者として市の子育てなどの情報を得るのが、昔はホームページだったのが、小学校の公式LINEを使うことに変わり、非常に速く情報が入り、アイコンがあるので自分で調べたい情報も非常に早く調べられて、便

利である。こども計画の冊子が届いたときも、こんなに岡山市が、自分たちがこんなにいいところに住んでいるというのを把握した状況である。このパブリックコメントが開始されたというのを知らず、一般の有識者の方を含め、実際に子育てしている保護者の方からの意見も、もし見て聞いていただきたいということであれば、それを知らないということになると意見も出ない。現実的に令和7年度、もうこの3月末にはこれが完成しているということであれば、どういうふうに保護者の方から意見をもらっているのか。このパブリックというのは平等だと思うが、私のほかにも、知らない保護者の方もいると思う。意見がなくても、会議の中だけで事が進むのではなく、保護者の声を聞いてくれる場があることを知っているだけでも多分気持ちが違う。よくあるパブリックコメントというのがどんなふうに進められたのか。もうコメントの募集は締切りになっており、意見がなかったなら、周知できていないのが理由かと思う。

○事務局 市のホームページで、あるいは公式のXのほうで、いろいろ広報紙にも載せたりしているが、やはり十分に届いていないようなので、少し工夫をしてみたい。

○委員 ちなみに公式LINEに載ってるということか。見つけれない。

○事務局 公式LINEのほうではなく、申し訳ない。

○委員 若い世代の方は、広報紙はあまり読まない方が多い。ホームページは見にくく、わざわざ見に行くことはあまりない。今の世代の方には、公式LINEがあるのならば、保護者の方が読むのは大変かもしれないが、締め切りを示して意見を募集する発信をするのがよいかと思う。学校単位でも伝えて、市がこんなにいいことをしてくれてるんだということが伝わらないといけない。児童クラブに行っても、お金を払ってお願いしているから先生方がやってくれるという意識になる。保護者自身も動かなければいけない。保護者も社会資源であるのに、やってもらって当然という姿勢は絶対によくないと思う。児童クラブに入った年は、ちょうどふれあい公社に移行して、市の管轄となった。民間でやっていた保護者会との連絡については、児童クラブ側からは連絡ができなくなり、保護者会を3年間で閉鎖をする活動をしてきた。保護者には岡山市に住んでよかったという認識が付き、自分たちができることも協力しようかという気持ちになる。夏休みの午前中だけでも子供さんの様子を見るプラス見守りの手伝いのボランティアを募集し、岡山市はきちんと運営している。そのことにより、親も感謝として自分たち

ができることはしたいという気持ちになる。そういったことを周知するための公式LINEがある。ホームページと市の広報紙だけというよりは、今は携帯で何でも済んでしまう時代なので、逆にそれを上手に生かし、みんなから意見を拾えたらいいと思う。

- 会長 パブリックコメントについては、今まだ募集中であるので、ぜひいろいろたくさん意見がもらえるような取組をしてほしい。長くなったが、たくさん意見が出た。まだ意見のある委員は、事務局のほうへ個別に伝えてほしい。

閉会